

2026 年度 ESG マテリアリティおよび 2025年度目標と実績一覧表

(注) ●:ガバナンスの深化 ●:成長領域の更なる強化 ●:新たな挑戦領域の確立

カテゴリー	ESGマテリアリティ		リスク	機会	財務影響		関連するバリューチェーン		中計基本方針との関連性(注)	目指す姿・中長期目標 ／特に貢献を目指すSDGs	インパクト		2025 年度目標	2025 年度実績			
	サステナビリティ課題領域	重点項目／管掌役			短期	中期	長期	上流			自社	下流			●	●	●
おいしさや健康	 食品安全と健康	製品安全と品質管理の徹底 執行役員 安全品質生産技術本部長	消費者への健康被害、顧客の生産計画へのマイナス影響等、安全・品質問題による市場・顧客からの長期的な信用失墜、収益性・企業価値の低下	(左記に対応することによる信頼性・企業価値の向上)	高	高	高		●	●		・製造される全ての製品において、自社が原因となるクレームゼロ		重大品質クレーム※1ゼロ	重大品質クレーム:0件		
		油脂中のプロセスコンタミナントの低減 上席執行役員 油脂事業本部長		プロセスコンタミナント※2低減の顧客需要の高まり等、市場環境・ニーズの変化に対応した油脂製品の供給拡大による収益性の向上	中	中	中		●		●	・市場の期待値に対応したプロセスコンタミナント低減		各グループ会社の品質担当者とのコミュニケーション強化、食品安全文化・品質情報などの情報共有の促進	特定テーマでの各社の品質活動、不二製油本社実施の内部監査指摘事項などの情報共有を実施		
		心身の健康課題の解消 執行役員 研究開発本部長	(右記に対応しないことによる収益性・企業価値の低下)	心身の健康課題に対応する顧客・消費者需要の高まり等、市場環境・ニーズの変化に対応したDTR※3、PUFA※4、BFY製品※5、植物性タンパク等の健康関連製品の供給拡大による収益性の向上	中	高	高		●		●	・人々が心身ともに健康で生きがいを持って暮らせる社会の構築に貢献する製品の健康価値の明確化と、製品を通じた健康価値の提供拡大		健康被害の発生、食品関連法規違反	・生涯にわたるウェルビーイングの実現 ・おいしさと健康の両立	研究開発活動にて得られる新たな知見も取り入れながら、全社一丸となってプロセスコンタミナントの低減を推進	プロセスコンタミナントに由来する顧客クレーム・製品回収の実例:0件
		多様な植物性素材の創造 執行役員 研究開発本部長	・気候変動・生態系不安定化による原料供給調達・価格上昇リスク ・需要集中・規制強化による原料調達リスクの拡大 ・動物性原料を取り巻く健康・環境面の懸念と供給・価格面の不確実性	・原料調達リスクや供給不安が高まる中、多様な植物性素材による調達先・利用用途の分散と供給安定による収益拡大 ・環境負荷低減やサステナビリティを重視する市場ニーズを背景に、多様な植物性素材の機能性・用途提案を通じた付加価値創出 ・食の多様化や嗜好変化を背景に、植物性素材ならではの「おいしさ・使いやすさ」を活かした用途拡大による成長機会創出	低	高	極高	●	●	●	●	・植物性食品の広い普及と食の選択肢の拡大による食料課題解決への貢献および当社グループ挑戦領域の拡大			価値観の多様化に貢献する新しい植物性素材の創出	発酵技術および油脂・タンパク加工技術を基盤とする植物性素材において、当初設定した開発・市場導入目標を上回る進捗が見られた	
		フードロスの削減とアップサイクル 執行役員 研究開発本部長	・フードロスへの対応不備・遅れによる社会やステークホルダーからのレピュテーションの低下 ・環境規制の不適合による事業継続リスク、規制対応コストの増加	フードロスを削減する素材、アップサイクル製品の供給拡大による収益性の向上	低	中	高		●		●	技術イノベーションならびに副産物の再利用を通じたバリューチェーン上のフードロスおよび廃棄物削減			【フードロスの削減】 食品の日持ちや賞味期限を延長する手法や製品の開発	日持ち・ハンドリング性の向上を目的とする生クリームブレンド用クリームなどを開発し、外食向けを中心に採用が進む	
		循環型フードシステムの構築 執行役員 研究開発本部長	気候変動に伴う異常気象による原料調達、物流、製造などバリューチェーンの各段階でのコストの増加	環境保全による持続可能な原料調達、高付加価値素材に適した生産工程導入による収益性の向上	低	低	高	●	●	●	●	気候変動の影響を受けにくく、環境負荷が低いサステナブルな循環型社会システムの構築に資する大豆活用技術の開発	  		CO2の施肥環境下における中規模植物工場での栽培検証	複数回の栽培試験を実施し、目標とする収量を達成	
サステナブルな食のバリューチェーン	 環境に配慮したもののづくり	CO2の排出削減 執行役員 安全品質生産技術本部長											スコープ1+2総量42%削減(グループ全体※12) スコープ3(カテゴリ1)25%削減(グループ全体※12) FLAG30.3%削減(グループ全体※12)	19.9%削減※13 11.7%削減 14.2%削減			
		水使用量の削減 執行役員 安全品質生産技術本部長	環境規制対応、炭素税導入によるコストの増加 ・異常気象に伴う原料調達量不足、製法の制限、生産量減少による市場・顧客が求める製品供給の停止 ・異常気象に伴う自然災害の激甚化によるグループ会社の損失 ・環境問題への対応不備・遅れによるステークホルダーからのレピュテーションの低下	環境負荷の少ない認証油や植物性素材の供給拡大	高	極高	極高	●	●		●	●	・健康被害の発生、食品関連法規違反 ・非効率な資源の消費や廃棄物の排出 ・サプライチェーン上のCO2排出量 ・水資源の枯渇 ・水資源の汚染 ・自然生態系の損失	・多様な食の選択肢による豊かな食シーンの提供 ・持続的なタンパク源供給による食資源の偏在の解消と健康増進への寄与 ・植物性食品素材の消費拡大による環境負荷の低減(CO2排出量の削減)	スコープ1+2 排出量削減	省エネ活動や再生可能エネルギー導入の継続的推進 国内グループ会社へのエネルギー管理の取り組み調査 海外グループ会社へのインターナルカーボンプライシング制度導入促進	・環境監査を通じた社内啓発(4社) ・不二製油(株)にて省エネ活動の活性化および自立化を目指した省エネパトロールを実施 ・スコープ1+2におけるCO2排出量に占める再生可能エネルギー割合7.6%
					スコープ3(カテゴリ1)	サプライヤーエンゲージメントの継続的実施	国内外サプライヤー30社に対し、オンライン面談やアンケート実施										
					FLAG	削減手法の情報収集	外部ヒアリングを通じた情報収集と蓄積										
		廃棄物の削減 執行役員 安全品質生産技術本部長			低	低	低	●	●		●		<環境ビジョン 2030 / 2050> ・2030 年度目標:水使用量(原単位※14)20%削減(基準年度:2020 年度)	  	原単位で20%削減(グループ全体※12)	16.6%削減	
					削減活動における改善事例の横展開を図る		・海外グループ会社4社へ環境監査を通じた社内啓発を実施 ・水使用量削減に関する改善事例をグループ会社へ横展開										
					環境監査の実施等によりPDCA(Plan Do Check Action)を回すことで、水使用量(原単位)の継続的な削減を図る	環境監査を通じて、環境管理状況および法令遵守状況を確認し、現在の管理水準および課題を共有 今後、改善計画の策定と実施を推進するため、まずはPDCAの「P」のサポートから着手											
		生物多様性の保全と回復 執行役員 経営企画本部長	・規制強化・新たな規制導入による対応コストの増加、法規制違反による市場・顧客からの長期的な信用失墜、収益性・企業価値の低下 ・主要原料の生育環境変化、原産地での生態系崩壊(花粉媒介生物の減少等)に伴う収量減少と相場乱高騰下による原料調達コストの大幅増加 ・生物多様性に配慮した代替原料を使用する製品の需要の高まりによる開発・生産コストの増加	・原料価格の高騰・原料供給調達の不安定化に伴う規制強化により認証原料(RSPO、RTRS等)の供給拡大による収益性の向上 ・生物多様性に配慮した、代替原料(酵母油脂等)を使用する製品の供給拡大による収益性の向上 ・外来種やGMO作物の逸出への対応に伴う社会的信用向上による市場・顧客の獲得コストの増加	高	極高	極高	●	●		●		ネイチャーポジティブなバリューチェーンの構築	  	TNFDコア開示指標を参考とした生物多様性に関する追加的な開示候補の検討	マレーシア・サバ州のパーム油小規模農家における再生農業の一環として、パイオ炭活用によるGHG固定量を定量的に算定し、サステナビリティレポート2026で開示	

2026 年度 ESG マテリアリティおよび 2025年度目標と実績一覧表

(注) ●:ガバナンスの深化 ●:成長領域の更なる強化 ●:新たな挑戦領域の確立

カテゴリー	ESGマテリアリティ		リスク	機会	財務影響		関連するバリューチェーン		中計基本方針との関連性(注)	目指す姿・中長期目標 ／特に貢献を目指すSDGs	インパクト		2025 年度目標	2025 年度実績			
	サステナビリティ課題領域	重点項目／管掌役			短期	中期	長期	上流			自社	下流			●	●	●
サステナブルな食のバリューチェーン	 サステナブル調達	パーム油のサステナブル調達 上席執行役員 油脂事業本部長	・生態系サービスの減少や不安定化、水資源枯渇・汚染、洪水・土壌浸食、農地環境破壊等に伴う収量減少と相場乱高下による原料調達コストの増加 ・原料調達量不足、製法の制限、生産量減少による市場・顧客が求める製品供給の停止 ・森林破壊、泥炭地開発、人権侵害等に伴う社会的信用の低下による市場・顧客の喪失	・規制強化により、認証油や植物性食品等のサステナブル製品の供給拡大と先行者メリットによる収益性の向上 ・主要原料の農地環境破壊・生育環境変化対応による原料の安定調達	高	極高	極高	●		●	●	    	農家の生計向上	搾油工場までのトレーサビリティ(TTM):100%	TTM:99%		
		カカオのサステナブル調達 上席執行役員 COO 兼 チョコレート事業本部長			高	極高	極高	●		●	<中長期目標> 森林再生、児童労働撤廃 <サステナブル調達コミットメント> ・2030 年までに児童労働撤廃 ・2030 年までにカカオ栽培地域に対して 100 万本植樹			     	・旧態依然の労働慣行による人権侵害 ・農家の貧困 ・児童労働、強制労働 ・先住民、地域住民、労働者からの搾取 ・自然生態系の破壊や損失 ・土地の利用の転換 ・不適切な廃棄物による環境汚染	農園までのトレーサビリティ(TTP):85%	TTP:96%
		大豆のサステナブル調達 執行役員 大豆加工素材事業本部長			低	中	高	●		●	<中長期目標> 森林破壊ゼロ、搾取ゼロ <サステナブル調達コミットメント> ・2030 年までにコミュニティレベルまでのトレーサビリティ確保、または RTRS 認証品もしくは RTRS ^{※21} 認証に準じたその他認証品での調達率:100%				パーム油のサプライチェーンにおける森林破壊を特定、監視、検証、排除するための、衛星写真による常時モニタリング継続	実施	
		シアカーネルのサステナブル調達 上席執行役員 油脂事業本部長			低	低	中	●		●	<中長期目標> 森林保全、女性のエンパワメント支援 <サステナブル調達コミットメント> ・森林破壊防止と緑地の保護:2030 年まで毎年 6,000 本植樹 ・地域レベルまでのトレーサビリティ:2030 年までに 75% ・Tebma-Kandu プログラムからのシアカーネル調達比率 ^{※22} :2030 年までに 50% ・西アフリカでのシアカーネル搾油・分別比率:2030 年までに 100% ・フジ オイル ガーナで使用する非化石エネルギー ^{※23} 比率(蒸気発生用):100% ・Tebma-Kandu 協同組合の代替収入のための、当社グループ寄贈倉庫活用比率:80% ^{※24}				DCF(森林破壊と土地転換フリー)	94.5% ^{※17}	
															バルマジュ エディブル オイル(マレーシア)のサプライヤーへのサプライチェーン変革プログラムの適用:90%	83%	
						</											

2026 年度 ESG マテリアリティおよび 2025年度目標と実績一覧表

(注) ●:ガバナンスの深化 ●:成長領域の更なる強化 ●:新たな挑戦領域の確立

カテゴリー	ESGマテリアリティ		リスク	機会	財務影響			関連するバリューチェーン			中計基本方針との関連性(注)	目指す姿・中長期目標 ／特に貢献を目指すSDGs	インパクト		2025 年度目標	2025 年度実績
	サステナビリティ課題領域	重点項目／管掌役			短期	中期	長期	上流	自社	下流			●	●		
サステナブルな食のバリューチェーン	人的資本と労働安全	DE&I※26 の推進※27 上席執行役員 CFO 兼人事総務本部長											差別・ハラスメント等の発生による、人権侵害・社会的信用の低下	公正な機会提供と評価を通じた、Hataraki-Gaiの向上 ・多様性を強みにした、イノベーションと価値創出の促進	意思決定層における多様性の確保	新体制に伴い、多様性指標と対象範囲を見直し(2026年度に再定義)
															DE&I方針の策定、浸透	・DE&Iビジョン※29を作成 ・グローバルエンゲージメントサーベイにおいて、グループ共通重点領域を設定し、展開
															エンゲージメントクロスボーダーチームの組成、チームによる従業員のエンゲージメント向上を図る施策の実施	2025年6月よりEngagement Champions Team運用開始(推進者育成、エンゲージメントサイクル定着支援)
															Hataraki-Gaiの向上 KPI:エンゲージメント・サーベイ全社総合スコア	75%
															多様な働き方の促進	再雇用嘱託制度の改定
														障がい者の長期活躍の支援	・外部農園「O joy FARM FUJI(エンジョイファーム不二)」における活躍支援 ・事業所内での職域拡大	
		人材の確保と育成 上席執行役員 CFO兼人事総務本部長											国内外的環境変化に対応し、課題解決と価値創出を担う専門性の高い人材が各領域で厚みを増している状態 ・重要ポジションの後継者プールが整備され、後任候補を継続的に確保できている状態	学びと成長機会の拡大による、従業員の成長と企業成長の好循環の実現 ・専門性の高い人材、経営人材の育成・輩出による、課題解決力・事業推進力の強化	指名・報酬諮問委員会による人的側面のガバナンス強化	・社長交代と同時に次期CEOサクセッションプランを始動 ・新役員報酬制度を導入
												次世代経営人材の育成			人材育成会議にて第2期次世代経営層育成プログラムを推進	
												事業本部への人事担当(HRBP※30)の配置			4事業本部にHRBPを配置(一部兼務などあり)	
												事業戦略上の重要ポジションのサクセッション、適正配置強化			・事業戦略上の必要人材の明確化/キャリアの見える化は次年度検討 ・海外駐在員の適正配置強化に向けたヒアリングを実施。配置方針は次年度策定	
												グローバル展開を支えるグループグローバル人材の育成			・海外駐在員プール充実化の研修を継続実施 ・語学力/専門性向上プログラムを導入 ・海外グループ会社人材の日本研修は検討にとどまった	
		労働災害および物的事故の低減 執行役員 安全品質生産技術本部長										人間尊重および安全第一を最優先とし、「安全で快適な職場」づくりによって全グループ会社で災害ゼロ	重大災害や重大物的事故の発生 ・労働による傷害や疾病、体調不良の発生 ・職場での感染症集団感染の発生	重大災害※31ゼロ 重大物的事故※32ゼロ	重大災害:1件 (フジオイルガーナで1名の死亡事故が発生)	
															重大物的事故※32ゼロ	重大物的事故:0件
企業行動	情報セキュリティ	情報セキュリティマネジメント 上席執行役員 CFO 兼 情報システム部門担当役員										企業経営に重大な影響を及ぼす IT セキュリティリスクへの対応体制の構築・対策の強度向上による当社グループの持続的な発展	サイバー攻撃に伴う操業停止や機会損失による収益性低下 ・社会および人命への損害の発生 ・情報漏洩による外部被害および損失の発生 ・腐敗、贈収賄や反競争的行為、その他法令違反の発生	セキュリティ内部監査を含むCSIRTによる対策状況評価活動の継続実施(2025年度計画:IT評価6社)	IT評価9社実施完了	
																IT、OTの新監査手続書の作成、および監査項目に対する評価基準の定義
			信頼性ある内部通報制度の運用 上席執行役員 CFO 兼 法務部門担当役員										内部通報の機能不全による社会的損害、重大な人権・安全上の問題の発生 ・情報漏洩による外部被害および損失の発生 ・腐敗、贈収賄や反競争的行為、その他法令違反の発生	内部通報制度に対する心理的安全性の醸成	グローバルラーニングによる従業員へのセキュリティ意識づけ教育を実施(受講完了率100%を目標とする)	受講完了率:98.7%
															重大な法令違反ゼロ	重大な法令違反:0件
																内部通報制度に対する信頼感の醸成
	公正な企業行動	公正な取引の推進 上席執行役員 CFO 兼 法務部門担当役員										公正かつ透明性を持った事業活動を行い、全てのステークホルダーから信頼される誠実な企業		内部通報制度に対する心理的安全性の醸成	通報窓口担当弁護士による当社内部通報制度の研修を実施し、改めて周知	
															グループ全体を対象とするコンプライアンスプログラム実施	前掲のグローバルラーニングおよび集合研修の実施
														従業員のコンプライアンス意識向上	アンケート「ビジネスとコンプライアンスが対立した場合にコンプライアンスを優先する風土があるか」に対する肯定回答率は90.9%(前年対比0.6ポイント増加)	

※1 重大品質クレーム:リコール(商品回収)が必要な、健康危害を与えるまたは法律違反している食品事故。
※2 プロセスコンタミナント:製造過程で混入あるいは生成される微量成分。
※3 DTR:不溶性物質の油脂への分散技術。
※4 PUFA:多価不飽和脂肪酸。
※5 BFY製品:BFYは「Better For You」の略で、「あなたにとっていいもの」という意味。シンプルな原料使用や機能性を付与・強化するものなど、健康に配慮した製品。
※6 プロレア®:酸化を抑える独自処理を施したDHA油。
※7 スコープ1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(当社グループにおける国内外の製造拠点・事業所において、燃料の燃焼や製造プロセスなどから直接排出される温室効果ガスを対象とする)。
※8 スコープ2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出(当社グループにおける国内外の製造拠点・事業所で使用する、電力や蒸気など購入エネルギーの使用に伴う温室効果ガス排出を対象とする)。
※9 スコープ3:事業者の活動に関する他社の排出。
※10 スコープ3(カテゴリ1): 原材料・資材等に係る温室効果ガス排出のうち、FLAG関連排出を除いた非FLAG排出のみを対象。
※11 FLAG(Forest, Land and Agriculture):土地利用の変化、農業・土地管理、炭素除去に関連する温室効果ガスの排出および吸収。
※12 グループ全体:グループ会社一覧を参照(プロバンスユイル(フランス)は除く)。
https://www.fujioil.co.jp/pdf/sustainability/download/esg2026.pdf#page=13(1.17MB)
※13 不二製油グループの削減目標対象はGHG排出量であるが、CO2が全体の94%(2025年度実績)を占めるため、主たる排出源であるCO2排出量の実績を記載。
※14 水使用量原単位:生産量当たりの水使用量。
※15 廃棄物量原単位:生産量当たりの廃棄物量。
※16 LTP:Labor Transformation Programの略。
※17 2025年度に検証された、2024年1月～12月の実績。
※18 GAP:Good Agricultural Practices(農業生産工程管理)。
※19 Satelligence:衛星データを活用して森林減少や土地利用変化を検出・可視化する地理空間分析企業(分析サービスを提供)。
Satelligence(英語)
https://satelligence.com/news/satelligence-and-blommer-partner-to-fight-deforestation-in-cocoa-areas
※20 対象は西アフリカ。
※21 RTRS:Round Table on Responsible Soy Association(責任ある大豆に関する円卓会議)。
※22 シアカーネル調達比率:Tebma-Kanduプログラムの考え方に基づいて当初から活動している協同組合に加えて、新たにTebma-Kanduの趣旨に賛同したパートナーからの調達数量を含める。
※23 非化石エネルギー:シアバターを分別した際に得られる副産物であるシアオレインをバイオマス燃料として使用。
※24 フジ オイル ガーナが寄贈したシアカーネル保管用倉庫のうち、空きスペースやシアシーズン以外の期間を利用して、シア以外の収穫物の保管に活用して収入を生み出している倉庫数の比率。
※25 Tebma-Kandu協同組合 :Tebma-Kanduプログラムの登録協同組合とTebma-Kanduの原則に従って活動するパートナー。
※26 DE&I:ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン。
※27 DE&Iの推進 :公正な機会提供や評価とインクルーシブなマネジメントによる多様な人材の活用。
※28 Hataraki-Gai :働きがい。人材戦略において、グループ共通の社内用語として使用。
※29 DE&Iビジョン
https://www.fujioil.co.jp/sustainability/diversity/
※30 HRBP :「Human Resource Business Partner」の略。
※31 重大災害:死亡事故、四肢等に後遺症の残る事故、長期入院(60日以上) 事故。
※32 重大物的事故:公的機関から全工場停止の指示を受ける爆発・火災・物的事故。